

内閣府事業「東南アジア青年の船」ワークショップ(乗船前/下船後)

乗船前5名

下船後38名

参加青年

- 日時：(乗船前) 2013.10.23 11:10～12:50、(下船後) 2013.12.15
- 場所：国立オリンピック記念青少年総合センターにて
- 対象：(乗船前) 参加青年教育担当者5名、(下船後) 参加青年38名
- 講師：(乗船前) みらい育ティーチャー2名、(下船後) 参加青年1名
- 絵本「じっとみて。」の制作



目標：チーム・ボンディング

52日間の乗船中、多様な集団アクティビティを体験する上で、相互理解を深めることによって有効な関係性を築く。

自分についてじっくり考え、**思考力** 思考のプロセスや結果を絵と文章で、カタチにすることができる。**創造力** **表現力**
自分の個性や魅力を確認したり、**自己肯定** 他者の思考のカタチにも触れることで多様な価値観を共有する。**他者肯定** **多様性**



23歳女性: 乗船前後の作品比較 「自分らしさとは何か」をつかむためのスタートラインに立った絵本

乗船前2013.10.23

1もしも自分をタネにたとえるならどんなタネ？

2どんな芽を出すのだろう？

3成長するためには、どんな栄養が必要？

4人生で最高の花をイメージしたら？

5未来へつなぐ新しいタネはどんなタネ？

下船後2013.12.15

1もしも自分をタネにたとえるならどんなタネ？

2どんな芽を出すのだろう？

3成長するためには、どんな栄養が必要？

4人生で最高の花をイメージしたら？

5未来へつなぐ新しいタネはどんなタネ？

【解説】
ASEAN10か国の青年約350人と一緒に体験した様々な活動は、彼らの魅力的な個性の中で自分自身の存在意義を考えざるを得ない状況であったこと、そして、自分もまた、自分ならではの生き方をしようと決意したことが伺える。

タネのシーンでは、1回目は満たされた幸せな状態を描いているが、2回目は白紙になった。まだ確信のない、自分を模索中であるという空白状態のイメージが引き出されている。

芽のシーンでは、活動をともにした青年たちの個性の中で、自分が普通に見えてしまったことが伺える。それゆえ次のシーンでは、どんな栄養が自分の糧になるか明確にイメージできなかったのだろう。

花のシーンでは、他の誰とも違う特別な自分の花を咲かせたいという願望が芽生えたことが読み取れる。

自分らしく歩んで行こうとするスタートラインに立った決意の絵本が完成した。

感想(乗船前)

- ・絵本を描き終わった後の達成感、充実感がすごいです。自分をみつめ直すすばらしい機会でした。他者のこともっと知れて楽しかったです。どうもありがとうございました。(23歳女性)
- ・とても楽しかった。自分がどう見られているかってことにフォーカスしがちだけど、友達が友達自身をどうみているかっていう知らないかったことを知れた。あらためてステキな仲間だと思った。(22歳女性)
- ・自分の欲が出た気がする。何となく楽になった。このタイミングでやれてよかったです。下船したらもう一度やりたい。(20歳女性)
- ・周りのみんなのイメージを聞く、見る、そんな絶好の機会だと思えます。(22歳男性)
- ・自分の本質、そして本当に望んでいる未来について深く考えることができて、とても楽しかったです。文字に完全におこすことなく、イメージをそのまま描く事ができたのも良かったと思います。描いてみる→考える、というプロセスが斬新でした。本当にありがとうございました。(23歳女性)

アンケート集計(下船後)

	1. 絵本制作の率直な感想をお聞かせください。	2. 制作を通じて、自己肯定感(いいな、自分！)は感じられましたか？	3. 様々な価値観を受け入れる機会となりましたか？
【乗船前】	とてもたのしかった :4名 たのしかった :1名	とても感じた :2名 少し感じた :3名	十分になった:5名
【下船後】	とてもたのしかった :15名 たのしかった :13名 ふつう :5名	とても感じた :5名 少し感じた :14名 どちらともいえない:14名	十分になった :13名 ほぼなった :13名 どちらともいえない :5名 ならなかった :2名